

SS-Science Camp II を実施しました。

SSHコース生徒の為に設定された野外実習プログラムだ。本年度は9名の男子生徒と2名の女子生徒が参加することとなった。貸し切りバスで学校から現地に約8時間かけて赴いた。

このプログラムは、理数科で実施しているヨセミテ国立公園での野外実習と同意義のものを日本国内で展開しようとしたもので、講師は2011年11月に開催された「極域気水圏シンポジウム（国立極地研究所主催）」において、『富山県の北アルプス・立山連峰に氷河が現存することが国内で初めて確認できた』との報告をされた、立山カルデラ砂防博物館の福井幸太郎先生にお願いした。福井先生には1日半の野外実習をフルにご指導いただくとともに、生徒とともに一泊していただくという贅沢な内容である。また、国際山岳ガイドの多賀谷治氏に野外実習中の安全確保をお願いした。多賀谷氏は、NHK-B S「にっぽん百名山」の製作や、映画「劔岳 点の記（2009年）」や「春を背負って（2014年）」の撮影スタッフ山岳監督として多方面で活躍されている。

室堂周辺における地質学的巡検の概要は次の通りだ。

- 1 氷河性堆積物の特徴
- 2 氷河地形と、そこから読み取れる氷河の規模
- 3 雪渓と氷河との違い
- 4 地獄谷周辺の火成・噴気活動
- 5 気象学的視点からの立山連峰

その後、信州大学理学部の戸田任重先生による「松本市周辺の湧水調査」を展開した。松本城周辺の湧水地点でサンプリングを展開し、大学内で検査データをとった。戸田先生のこれまでの研究成果を含めた貴重な講義を聴くことができたとともに、最新の計測装置を見学し、説明していただいた。過去には、この成果を課題研究に反映させるグループも見られた。

日本教育大学院大学 武田康男先生には本研修の事前学習をお願いするとともに、研修の全行程に同行していただいた。「空」の専門家である武田先生は、日中には雲、夜には星空のご講義を展開され、24時間、生徒の好奇心を刺激してくださった。気象予報士の立場から投げかけられる、天候の変化についての的確なアドバイスは、生徒の安全確保に向けて大な助けとなった。

対 象 普通科SSHコース生徒 希望者

参加数 11名

日 程

第1日目 8月18日（木）

学校発 6:10—京葉道・東関道・首都高・中央道—立山カルデラ砂防博物館 14:20

弥陀ヶ原湿原 F.W.15:20—室堂ターミナル 17:00—立山 F.W.1—宿舎 17:50 ミーティング

第2日目 8月19日（金）

宿舎—地獄谷（噴気孔）—赤壁・黒壁（氷河性堆積層及び火砕流堆積層）—浄土沢—

—山崎カール—ノ越—雄山（御前沢氷河）—宿舎 ミーティング

第3日目 8月20日（土）

宿舎 8:00—室堂ターミナル 9:00—室堂山周辺 F.W.2—室堂発 12:30—黒部ダム 13:30

—黒部ダム発 15:30—扇沢 16:00—宿舎 16:40 ミーティング

第4日目 8月21日（日）

宿舎 8:00—信州大学 9:00（戸田教授と合流）—松本市内湧水調査 F.W.3—信州大学 11:00

—戸田教授による講義—松本発 13:30—中央道・首都高・東関道・京葉道—学校着 19:00



校内事前学習（武田康男先生）



立山カルデラ砂防博物館（福井幸太郎先生）



氷河の研修場所に向けて移動（雄山）



国際山岳ガイド 多賀谷治氏による指導



御前沢氷河の解説（福井幸太郎先生）



氷河底堆積層の研修場所に向けて移動



松本市内の湧水調査（戸田任重先生）



湧水サンプリングの様子